

先輩農業者インタビュー

親元就農

水稲、大豆

富山県入善町

寺崎巧人さん
(有限会社ロッキーファーム)

就農のきっかけ

－ 就農に至る経緯を教えてください。

私はもともと教育学部で学び、体育教師を目指していました。しかし卒業後はJAに就職して、6～7年ほど米の販売や流通に関わる仕事をしていました。実家は農家だったので、子どもの頃から田植えの時期などには手伝いをしていましたが、当時は「休みがなくて大変そうだな」という印象が強く、自分が農業を仕事にすることはあまり考えていませんでした。ただ、JAで働く中で生産者の方々と接し、農業が地域を支える大切な産業であることや、その面白さを改めて感じるようになりました。ちょうどその頃、弟が先に実家で就農していたことから、自分も家業に入ることを決意しました。

就農後のこと

－ 就農初期で大変だったことを教えてください。

もちろん大変なこともありますが、機械化が進んでいることもあり、想像していたほど体力勝負の仕事ばかりではありません。現在は農作業全般に携わるほか、種子や米の検査業務も担当しており、幅広い経験を積んでいます。

一方で、種子生産は管理や検査など手間のかかる作業が多く、責任の重さも感じています。また、夏場の暑さや資材価格の高騰など、農業経営ならではの苦労もあります。それでも、自分たちで育てた作物が収穫され、お客様のもとへ届いていく過程を実感できることは大きなやりがいです。特に、自社で販売した商品に注文が入ったり、お客様から反応をいただいたときはうれしいですね。

－ 働くうえで魅力に感じていることは何ですか？

現在のロッキーファームは若い従業員が多く、職場の雰囲気も明るいのが特徴です。農業というと個人で黙々と作業するイメージを持たれがちですが、実際は仲間と協力しながら仕事を進める場面も

多く、チームワークの良さが仕事の楽しさにつながっています。子どもの頃は「農業は休みがなくて大変な仕事」という印象を持っていましたが、実際に働いてみると、そのイメージは大きく変わりました。繁忙期を除けば休暇も取りやすく、仕事とプライベートの両立もしやすい環境が整っています。今後、規模拡大することもあり、一緒に働きたいと言ってくれる友人も出てきています。

－ 今後の展望について教えてください。

今後は経営規模の拡大だけでなく、農業そのもののイメージを変えていくことにも力を入れていきたいと考えています。

農業というと、まだまだ「きつい」「汚い」「休みがない」といったイメージを持たれることがありますが、実際はそうではありません。だからこそ、SNSを活用して日々の作業風景や農業の魅力を積極的に発信し、若い世代にも農業の面白さを知ってもらいたいと思っています。

また、ロッキーファームではお米や農産物を販売するだけでなく、オリジナルのTシャツやトレーナーなどアパレル商品の展開にも挑戦しています。農業とファッションを組み合わせることで、農業に興味のなかった人にもロッキーファームを知ってもらうきっかけをつくりたいと考えています。

「農業はカッコいい仕事だ」と思ってもらえる人を一人でも増やしたい。そのために、農産物の生産だけでなく、SNSやデザイン、ブランドづくりにも取り組みながら、新しい農業の形を発信していきたいです。将来的には、農業に憧れて就農を目指す若い人が増えるような魅力ある存在になればと思っています。



就農希望者へのメッセージ



－ 就農希望者へのアドバイスをお願いします。

農業は、やってみないと分からない魅力がたくさんあります。私自身も子どもの頃は『休みがなくて大変そう』というイメージを持っていましたが、実際に就農してみると全然違いました。今は機械化も進んでいますし、自分たちで作ったものを販売したり、SNSで発信したりと、いろいろなことに挑戦できます。私は今、農業をすごく楽しい仕事だと感じています。なので、興味があるなら先入観を持たずに一度飛び込んでみてほしいですね。やってみれば、きっと農業の面白さが見えてくると思います。

（取材：令和8年7月）